

 氏名 / Name
 濱川 はるか

 所属 /Aaffiliation
 日本女子大学 修士 1 年生・篠原聡子研究室

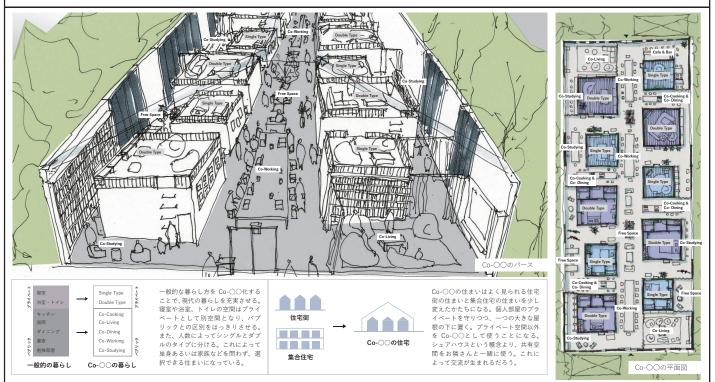
 部門 / Section
 コミュニシティデザイン部門 / 社会問題解決型住居部門

コンセプト / Concept

$\lceil \mathbf{Co} - \bigcirc \bigcirc \rfloor$

Co-は「何かを共有する」という意味を持ち、最近流行っている Co-Working や Co-Living などの言葉にも使われている。今の時代には変わっていく家族単位と増えていく単身住まいのなかに、シェアしていくことが重要になる。家族、単身、カップルなどという概念を無くし、共有すること重視している新しい暮らし方を提案する。

アイディア / Idea

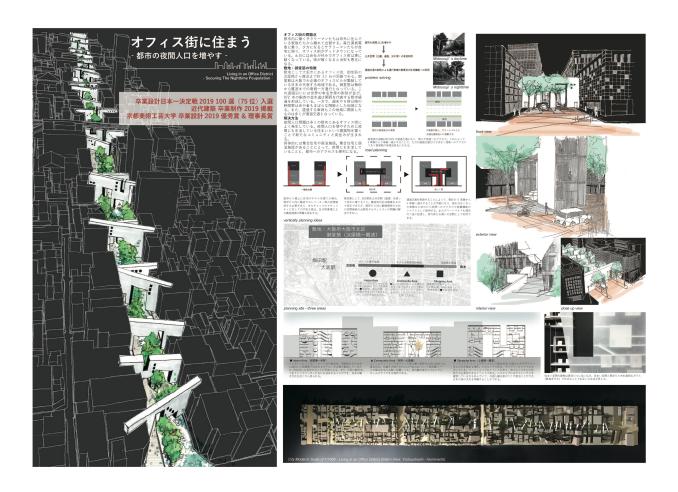


○なぜその建物を作りたいと思いましたか?またなぜ応募しようと思いましたか?

最近はノマド生活をしている方々が増えているため、未来に向けてシェアハウスの住み方を提案したいと考えています。ノマド生活は情報化社会が進んでいて、定住住民ようり移動住民の方が多くなっています。移動住民(ノマド生活者)のためにシェアハウスを考えました。

○提出作品を作るとこに大変だったことはありましたか?

私の修士設計もコリビングという住み方について調査しています。シェアハウスとは関連しているため、シェアハウスの論文や本なども調査しています。修士設計の初期提案と言ってもいいでしょう。



○実現するとしたらどこでつくりたいですか?

東京や大阪、都市がいいと思います。多世代・多国籍の人口が集中している都市の方に向いていると思います。情報化社会が進んでいるのは大都市ですから。

○シェアハウスに住んだことはありますか?

住んだことはないですが、友達がシェアハウスにすんで、そこに遊びに行ったことはあります。

また研究室でのつながりでシェアハウス見学行ったことあります。研究室の先生が設計した、「シェアハウス矢来町」がとても印象的でした。共用部分が大胆にオープンにしていて、ビニールでファスナーつけた入口があります。セキュリティが不安かもしれないと思いますが、実は共同生活が周辺の住民に開かれているため、守ろうという意識が高まっています。一人より、共同の方がいいです。 プライバシーもパブリックもはっきりしていて、両方の生活が充実できるシェアハウスなら住ん でみたいと思います。長期ではないですが、1 か月ぐらいなら住んでみたいと思います。

○このコンペティションを通して今後どういったシェアハウスを考え、企画したいと思いますか?

さきほどの答えと同じですが、プライバシーもパブリックもはっきりしていて、両方の 生活が充 実できるシェアハウスです。ノマド生活している人が生活も働き方も充実できる ような生活空間のシェアハウスを考えたいです。

○最後に発表に向けて意気込みをお願いします!

わかりやすく、模型を用意しています。よろしくお願い致します。